

# 「 住み慣れたところでいつまでも安心して暮らしたい 」 ～行方不明リスクの予防～

○発表者名	社福) 鳥取福祉会 小規模多機能事業所木もれ陽	介護員	前川 洋史
共同研究者名	同上	主任介護士	濱本 博貴
	同上	所長	山崎 剛

## 1. 問題提起

当施設では過去3年間(R2～R4年)に施設から利用者が外に出てしまう(以下「離設」という)出来事が4件。また、施設登録者が自宅から行方不明になることが8件発生している。(※1参照)

一方で全国の認知症行方不明者(右図)は9年連続で増加傾向にあり、年間約1万8千人(令和4年)と過去最大となっている。認知症行方不明者の96.8%は無事に保護されている一方で、年間約500人程度は遺体で発見。警視庁のデータによる都道府県別の受理件数は、当然のことながら人口の多い都市圏が多い傾向にあるが(鳥取県は60件)、死亡確認者は山間部の多い地域の死亡者の割合が多い傾向にある。(全国平均2.65%で鳥取県5%、島根県14.3%)また、厚生労働省が示す統計で2025年には認知症有症者は700万人超と予測。認知症の母数そのものが増え、行方不明者も必然的に増加傾向になると言える。



警視庁のデータによる都道府県別の受理件数は、当然のことながら人口の多い都市圏が多い傾向にあるが(鳥取県は60件)、死亡確認者は山間部の多い地域の死亡者の割合が多い傾向にある。(全国平均2.65%で鳥取県5%、島根県14.3%)また、厚生労働省が示す統計で2025年には認知症有症者は700万人超と予測。認知症の母数そのものが増え、行方不明者も必然的に増加傾向になると言える。

当施設の登録者は26名。認知症有症者は全体の74%。アルツハイマー型が多数を占め、見当識障害の進行により行方不明リスクが増加する懸念がある。そして世帯状況においては独居が10名。日中独居となる方も8名おられ、小規模多機能は家族の介護支援が得られにくい方が利用される傾向にある。独居に限らず、家族による見守りが困難で行方不明になる可能性の高い方は4人に1人。このような状況の中で認知症高齢者の離設防止、及び在宅生活において認知症高齢者やその家族が安心して出掛けられる環境作りに取り組む必要があった。

### ※1. 未発見者の事案 A氏 75歳 女性 要介護2 50代息子と二人暮らし

アルツハイマー型認知症で歩行は自立。その場限りの会話は可能。日課は毎朝スーパー(約2km)に出掛ける(買物はしない...)。しかし、長時間の散歩での熱中症、送迎時に自宅に居ない、携帯電話の不携帯等、心配事が増え息子に相談をにかけていた。息子には精神疾患があり、引きこもりで夜間は眠剤を服用。対策として息子が自宅の鍵にGPSを付け、出掛ける際に分かるよう玄関にチャイムセンサー設置。また、早朝に出掛けることがあるが息子から「朝は自分が薬を飲んでいて起きれない」との事で、朝の4時に起こしてほしいと言われモーニングコールを施設が行っていた。息子からは、母親が出掛ける時にはセンサーで察知しGPSを持たせることが出来ていると言われていた。行方不明当日は、午前4時に息子は施設からのモーニングコールで起きるが、二度寝してしまう。母親が自宅から居なくなった事に気付いた時には10時になっており、職員、地域住民、警察等で捜索するも未だ発見されていない。

## 2. 目的

認知症高齢者の行方不明リスクの予防を目的とした安心・安全な施設環境整備、及び独居生活者など介護支援が得られにくい方が安心して外出が出来る仕組み作り。そしてその課題点を明らかにすることを研究目的とした。

## 3. 方法

### I. 【施設】離設防止(施行時期R4年9月～)

- (1) デイルームの引き扉の改修: 夜間は職員の一人体制時等、見守り不足になる時間帯に見守りが出来るよう扉に棒鍵(右図)を新設。
- (2) 自動ドアスイッチ導入: 玄関が内側から開閉しないようにし、玄関から出る際は必ず職員が付き添うように変更。



(3)安心カメラの設置：離設した時間の把握や、どちらの方面に向かったのかを分かるようにした。

## II. 【在宅】行方不明リスクの予防

認知症の行方不明者は約1万8千人。73.9%は当日保護され、99.4%は1週間以内に発見していることから、行方不明時の初動対応が重要となる。鳥取県警察本部生活安全部少年・人身安全対策課からアドバイスを頂き、以下のマニュアルの見直しを行った。

- (1)杖や服など身に付ける物に名前や連絡先を記入 ➡ ヘルプカード導入の検討等
- (2)地域包括、警察、地域協力者等と事前情報の共有 ➡ 認知症高齢者安心見守りの登録
- (3)早期通報 ➡ 本人、家族に通報許可の事前承諾、及び「あんしんトリピーメール」、「防災行政無線」の事前承諾
- (4)居場所の把握 ➡ GPS、携帯、玄関センサー等：最終手段はGPSになると考えるが、いきなり取り付けるのではなく利用者の状況に合わせた対応が必要。また、AirTagは施設管理でGPSの導入が困難な時に活用 ➡ ①契約から導入までの期間②故障・電池切れ③携帯等など身に付ける事が出来なくなった場合。500円玉より少し大きい程度で他の一般的なGPSよりも小さく鍵や靴などに付けやすいメリットがある。
- (5)利用者の状況に合わせた対応策の検討 ➡ 中央包括支援センター、認知症地域支援推進員のアドバイスを頂き「行方不明リスクの予防フローシート」を新たに作成。

## 4. 成果・課題

### I. 【施設】離設防止の対策(1)(2)(3)を行うことでR4年9月以降の離設者は0件となる。

職員の意見：所在確認が容易となり他利用者に関わる時間が増加。また、精神的負担が軽減された。

家族の意見：必要に応じて出入り出来るようにされ、閉じ込めているといった否定的な意見はなく、防犯面でも安心感があってよいとの意見を頂いた。

### II. 【在宅】行方不明リスクの予防について

マニュアル整備を行ったことで、利用者の状況に合わせた検討事案の可視化により、対応策がより明確となった。早期通報については事実、行方不明となってから通報するまでに「迷惑をかけてしまう」「警察のお世話になるのは…」と通報をためらう方が多いという課題があった。家族等少人数で1時間程度搜索した後からの通報では手遅れになることもある。行方不明リスクを事前に伝える（行方不明リスクの啓発資料を作成）ことで事前承諾を得られやすくなり、早期発見に重要な早期通報が可能となった。

利用者の意見：安心して外出が出来る。分からんようになつたら助けてほしい。

職員・家族の意見：手順が見直され、行方不明時の対応が分かりやすくなった。履き慣れた靴に付ける事が出来て良い。



### III. その他GPSの副次的効果

- (1)訪問前に所在確認が出来るので、不在時の訪問が無くなり、状況に合わせた対応が出来るようになった。
- (2)行動履歴が分かることで、いつどこに買い物や散歩に出かけている等、在宅での暮らしぶりの把握に繋がり、外出が出来なくなった時の支援に活用することができた。

## 5. 課題：施設の課題は地域の課題

認知症と診断されていない時期に行方不明となる方

は約3割。「まさか自分が」と本人や家族も驚かれる調査内容(右図)がある。迷子や行方不明になってからではなく、施設が関わる前から地域高齢者やその家族へ、行方不明リスクに対する理解の啓発が重要である。施設理念でもある「住み慣れたところでいつまでも安心して暮らしたい」を実現するため、この研究活動で得た気づきや学びを地域課題として捉え、活動を継続し地域貢献に繋げていきたいと考える。

「公益社団法人認知症の人と家族の会」  
認知症の人の行方不明や徘徊、自動車運  
転にかかわる実態調査(2018)

要介護度	始まったころの段階	終了したころの段階
未認定	118 30.2%	0 0.0%
要介護1	106 27.1%	13 6.2%
要介護2	113 28.9%	59 28.1%
要介護3	46 11.8%	95 45.2%
要介護4	7 1.8%	28 13.3%
要介護5	1 0.3%	15 7.1%
集計	391	210

記入例

「テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」

○発表者名 社福) 鳥取県社会福祉協議会 福祉人材センター 鳥取 花子  
共同研究者名 社福) ■■■■■会 ●●●●園 鳥取 太郎  
■■■■大学 ●●●●学部 .....専攻 鳥取 次郎

文末表現…だ・である調

1. 問題提起

※研究テーマを取り上げた理由やその背景などをまとめてください。

例) ○○事業所では、.....といった現状があり、.....といった取り組みを行ってきた。しかし、取り組みを行うなかで.....といった課題が明らかになってきた。

2. 目的

※研究・実践で明らかにしたいこと、目的をまとめてください。

例) 本研究では、.....といった取り組みを行うことで、どのような効果があるのかを明らかにすることを目的とした。

3. 方法

※研究にどのように取り組んだのか、研究対象や具体的な方法、内容をまとめてください。

例) .....を対象に、以下の内容に取り組んだ。

- ① .....
② .....
③ .....

4. 成果・課題

※研究・実践から見てきた成果や課題、それに対する考察等をまとめてください。
研究・実践結果をまとめた表やグラフ等があれば、この欄に貼り付けてください。

例) 【成果】

.....といった成果が表れた。そこから.....ということが考えられる。

【課題】

.....といった課題が見えてきた。そこから.....ということが考えられる。

【結果データ】

Table with 3 columns and 3 rows, containing vertical ellipses in the bottom row.